





あめがふるとき  
ちょうちょうは  
どこへ

M・ゲアリック=文  
L・ワイスガード=絵  
岡部うた子=訳

金の星社 (E7)

～～ 図書館員がおすすめするこの一冊 ～～

# あめがふるとき ちょうちょうは どこへ



M・ゲアリック=文

L・ワイスガード=絵

岡部うた子=訳

\*\*\*\*\*

この絵本をおすすめの一冊に決めた日は雨で、絵本のなかの世界とまるでそっくりな日でした。空は一面灰色で、建物の外にできれば人気はなく、雨の音と、道路を走る車の音だけが聞こえてきます。その雨も、大粒の雨音ではなく、小雨で静かな静かな音で、とても落ち着いた気分になりました。

雨は激しく降れば時に不安な気持ちにもなりますし、久しぶりの雨となれば、天の恵みとしてありがたく思われます。この絵本は、そんな雨の厳しい面、優しい面を語っているのではないようです。タイトルのとおり、「あめがふるとき、ちょうちょうはどこへいくのかしら。」と語っています。もぐら、みつばち、ことりたちは・・・

ほとんどがひらがなの文章と、限られた色だけで描かれた絵、効果的に使われる色。ページを開いて眺めていると、語り手と一緒に静かな静かな雨の風景のなかに引き込まれていき、自分の時間すらゆったり流れていくような気持ちになります。そしてその時間を楽しんだほど、おわりに姿をみせるちょうちょうの姿が印象的です。

初版発行1974年の絵本なので、すでにご存知の方も多かもしれません。すでにご存知の方も、そうでない方も、ちょっと疲れたとき、忙しいとき、雨ばかり続いて気分がなんとなくすっきりしないとき、この絵本を手にとってみてはいかがでしょうか。雨の日、見落としがちな小さな生き物たちに目を向け、想いをはせるやさしい穏やかな気持ちを感じることができるような気がします。こどもたちは、絵本に登場する生き物だけでなく、他の生き物たちはどうしているかしら、と思うかもしれません。

じっくりと眺め、ゆっくりページをめくりたい一冊です。

(内山)

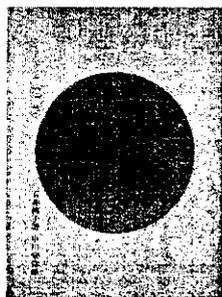
## 第九十一回読書会

平成二十年五月十八日(日) 午後二時

### 『ノンちゃん雲に乗る』

(福音館書店)

石井桃子 著



☆☆参加者の感想☆☆

★子どもの頃から題名はよく知っており、いつか読もうと思っていたが、なかなか時間がとれなかったのですが、今回の読書会がちょうどよい機会であった。ノンちゃんの名格やお父さん、お母さん、にちゃんをはじめ、物語に登場する人たちの個性がうまく表現されており、楽しく読ませてもらった。

★舞台は東京であるけれど、坂道や池、木立等がありどこか昔の懐かしさを感じた。  
★いじめっ子の長吉やじいさんが登場しているが、全体的に牧歌的でゆんぴらとした物語の中でアクセントとなっている。  
★「にちゃんぶたれるの巻」で、にちゃんがにちゃんをしかついている場面があるが、子どもをしかる際、自分だけの判断で直ぐに接することのないよう、その子の反応を十分考えたうえで、接することが大切であるとあらためて反省させられた。  
★はな子ちゃんの冒険好きでやんちゃなところがとてもよく描かれていて、おもしろかった。  
★にちゃんが飼っていた愛犬エスとの死別の場面が切なく思わず涙が出そうになった。  
★やんちゃんににちゃんの生き方、又愛犬との別れ等人生の様々な岐路において、自分とタフらせながら読んだ。  
★ノンちゃんが糸巻ぎの手伝いをしてる情景が懐かしく、バブル時代の現代の子どもたちにもぜひとせという体験が必要であろうと思った。  
★物語に出てくる子どもたちの遊びが懐かしく感じられた。  
★文章の中でにちゃんとノンちゃんとの会話の部分がブルーの文字で書かれていたり、随所にさし絵があったりしていて、非常に趣があると感じた。

★にちゃんが算数を独特の数え方で数えていることが面白かった。

★飛行機に乗ることは、鳥のように自由に空をかけるのではなく、訓練のためであるというところで、あらためて時代を感じるとともに、戦争の哀れさを感じた。

★ほんの些細な日常の出来事を、自然の描写を交えて感動的に描いており、非常に心が洗われるようだった。

★現代において子どものためにこのような文章を書く人がいるのだろうか、作者の創作性に感動した。

★昭和20年、30年代に育った人々には物語に出てくる風景、遊びなどが懐かしく感じられて幼い日の思い出がよみがえってきた。

以上、参加した人がみな子ども頃の懐かしい風景や遊び等を語り合っ、古きよき時代に思いを馳せていました。

### ◆◆◆◆◆ 次回の読書会は

六月十五日(日)午後二時から

(会場はルーム3です。ご注意ください)

### 「お話を運んだ馬」

シンガー作・工藤幸雄訳 (岩波書店)

皆さんのご参加をお待ちしています！

(坂井治)